



▲「真鍋ゼミチーム」は企画部門の準優勝チーム。回覧板をモチーフにし、アプリのプッシュ通知機能を全面的に活用した、地域情報通知アプリを企画

▲昨年開発部門で優勝した「I-Generations」チームは、高齢者専用の認知症予防アプリを開発

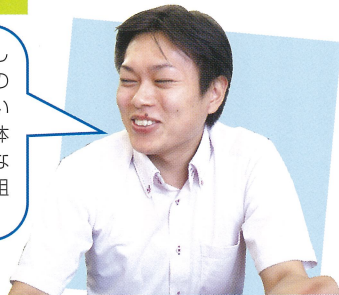
運 営母体は2014年に設立された「横浜国立大学校友会」。校友会は在学生・同窓生・教職員（退職者を含む）、その他横浜国立大学に深い関わりを持つ方々を包括する全学部横断的組織で、総合大学にありがちな同じ学部やゼミのつながりは強いけれども、横のつながりが弱い、といった懸念点を克服する組織として機能しはじめています。アプリコンテストという、理系の学生ばかりが参加する印象があるかもしれませんが、昨年は半分が文系の学生でした。わたしは理系の人間なのですが、文系の学生の考え方は新鮮で刺激を受けます。文系の学生も同じように感じているのかなど。このアプリコンテストを通して、校友会が目標として掲げる横のつながり強化によるYNUブランド力アップが、形として現れ始めていると思うんですね。今後は本イベントに「理系寄り、文系・理系の考え方をミックスさせていくこと」、事業にもつなげていけたりするんじゃないかと期待しています」と丸岡さん。経験を重ねた説得力のある言葉で話してくれた。

お二人の野望とは



吉田さん

アプリコンテストを大学内のベスト3に入るビッグイベントに！将来的には横浜や神奈川にある大学と協力して地域のアプリコンテストとして成長させます！卒業まではその地固めに奔走します！



丸岡さん

校友会の学生幹事会は発足したばかり。今は幹部クラスのメンバーが9名で活動しています。いずれは全学生が一体となって、学生がさまざまなことをアウトプットできる組織にしたいです！

第3回 横浜国立大学アプリコンテスト

テーマ「〇〇の時間を豊かにするアプリ」

決勝プレゼン／2016年11月20日(日) 10時～17時 ※終了後懇親会あり(参加自由)
 場所／横浜ワールドポーターズ イベントホールB
 優勝賞金／アプリ開発部門：30万円 アプリ企画部門：10万円 ※MVPにはシリコンバレーツアーあり
 運営／横浜国立大学校友会 横浜国立大学情報基盤センター
 観覧料／5,000円

優勝賞金30万円をかけたヨココク冬の陣！ 専門家もうなるほどの、レベルの高いアプリが間近で見られるこのコンテスト。アプリにかけた「横国生」の熱いエネルギーをキャッチしてみませんか？

一般観覧も可能な本コンテストへのお問合わせ、取材のお申込みは・・・

横浜国立大学校友会 045-339-3177 (平日 8時半～17時) 担当：吉田
<http://ynu.yokohama/> (横浜国立大学アプリコンテストホームページ)

横浜国立大学プロフィール

1949年に創立した、横浜市保土ヶ谷区常盤台にある総合大学。約7,500人の学部生と約2,500人の大学院生が学んでいる。教育人間科学部、経済学部、経営学部、理工学部の4つの学部で編成。横浜市民の間では「ヨココク」と呼ばれ、親しまれている。



※横浜国立大学提供



昨年度のプレゼンテーションの様子

開催の目的は、「校友会が中心となって国大とOB・OGが協力して、ITに強い学生の育成を支援する」「ITに強い学生と社会との交流の場を設け、キャリア形成に資する」という二点。学内で開発部門と企画部門を募集し、予選を突破した計10チーム(2016年度の場合)が11月の決勝でプレゼンテーションを行い、各部門での優勝の座を狙う。実行委員会は応募したチーム向けに7月～8月にかけてアプリ開発やアプリ企画の勉強会を開催し、そのレベルアップも支援している。着眼点だけでなく、プレゼン力や企画力も審査の対象となるため、コンテスト運営というだけあってスポンサーを募ったり、広告を作成する必要もでてくるわけだが、それらも学生が行っている。「理系で机に向かってモノづくりばかりしていた自分自身が、企業に営業にいったりするのは、初めての経験で戸惑いもありましたが、回数を重ねていくうちに「次はこうしてみよう」とアイデアが生まれたり、だめだった場合は原因を分析してみたり。あ、自分ってマーケティングにも興味があるんだなって新たな一面を発見できました」と語るのは吉田さん。「研究が忙しいので、実行委員なんてやらなくてもいいことなのかもしれませんが、経験できることはやっておかなくちゃ。無駄になることなんてないと思ってます」。